教頭会報

栃木県公立小中学校教頭会
発行者　鈴　木　則　利
編　集　広　報　部

もくじ

◎会長あいさつ …… 1
◎全国研究大会　佐賀大会
（オンライン大会） …… 2
◎令和３年度役員紹介 …… 4
◎特色ある学校 …… 8
◎地区だより …… 9
◎ひろば・編集後記 …… 10

会長あいさつ

「教師自戒」

宇都宮市立陽東中学校　鈴　木　則　利

令和３年２月に栃木県教育振興基本計画2025が策定され、その基本理念は「とちぎに愛情と誇りをもち　未来を描き　ともに切り拓くことのできる　心豊かで　たくましい人を育てます」となっています。そして、「自分の目指す未来を自ら描く力」、「描いた未来を実現するために必要な力」、「多様な他者と協働して創造する力」、「心の豊かさ」これらを身に付けることであるとしています。

これらを児童生徒たちに身に付けさせることが、我々教師に与えられた使命であり、そのためには、教師である我々が教育公務員としての自覚を持たなければならないことは、だれもが承知していることと思います。

今回は、皆さんもご存じとは思いますが、栃教協初代会長　渋江義郎先生が、日教連教育新聞に投稿された「教師自戒」の一部を紹介させていただきます。

【 教 師 自 戒 】

教師である限り、常に次のように心掛けたいものと思っている。言わばこれが教師の最低条件だと思っている。

- **なるべく学校を休まない。**
- **まちがいを教えない。**
- **好ましくない感化、影響を与えない。**
- **法規に違反しない。**

これらは、当たり前のことであるかもしれない。この極めて平凡なことが、誰にも強いられずに確実に守ることは、なかなか容易なことではない。

学校を休まないようにするには、常に健康保持に努めなければならないし、間違いを教えないためには、実力を備え、日々の教材研究も十分にしなければならない。また、好ましくない影響を与えないためには、常に修養に心掛け、日々の生活態度を正しくしなければならない。さらに、法規に違反しないためには、法規をよく知り、教育公務員としての自覚を持たなければならないのである。これが教師というものであろう。少なくとも、こうあるよう心掛け、努力するべきだと思う。

児童生徒を考えない教育はないし、児童生徒を離れて教師は存在しない。教師である限り、児童生徒の方を向き、その教育に専念すべきである。これから伸び行く児童生徒をけして歪めてはならない。そのための最低条件として、私は前記の４点を守るように心掛けている。

私は、この投稿を20年以上前に初めて目にし、それ以来これを座右の銘のように心に刻んでいます。でも、なかなか思うようにできない日々が続いているのが現実です。

会員の皆様方も、それぞれの志を持ち、日々努力されていることと思います。我々は、今後も先輩方の研究成果や実績を継承しつつ、子供たちのためのより良い教育の推進を目指し、会員相互の協働意識を確認しながら、本会のより一層の充実発展に努めていかなければなりません。皆様方のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

全国研究大会　佐賀大会（オンライン大会）

記念講演「組織を活かすマネジメント」を拝聴して

日光市立日光中学校　福　田　靖　彦

前広島東洋カープ監督の緒方孝市氏は、33年という長きにわたり野球人生を歩み、現在は野球評論家としてご活躍されています。今回は、監督としての５年間、24年間優勝がないチームを３連覇を果たせるまでのチームにどのようにマネジメントしたのかについてご講話いただきました。

監督に就任された2015年は、選手層が厚く優勝が囁かれる中、まさかの７連敗を機し69勝71敗で４位となりファンから大ブーイングを受けたそうです。

そこから、翌年2016年には前年度の全試合を細かく分析し、その中で見えてきたことは、選手の基本プレーができていないこと、コーチも動けていないこと、そして、監督も指示を出していないこと、また、27試合が１点差で敗退していることが分かったそうです。そこで、１点に拘ったチームづくりに取り組み、具体的には、①コーチ任せの加減、②投手分業、③守備の連携、④チャンスに１点を取る攻撃、⑤盗塁の成功率アップ、⑥若手の積極的起用、⑦情報戦略を徹底したそうです。

その結果、セ・リーグ優勝を勝ち取り、その後３連覇を成し遂げました。

選手の意識改革をする中で、結果に対する考え方と対処の仕方を徹底的に教え、よい結果のみならずミスをした時にどうするかと､そうならないための周到な準備が必要であるという言葉が印象的でした。

また、組織マネジメントをする上でヘッドコーチの役割が重要であるとも話されていました。常に監督の近くにいて考えを理解しコーチに指示したり、選手の愚痴を聞いたりしながら、チームをよりよい方向に導く調整役であるという話があり、学校でいう教頭の役割に近いものがあると感じました。選手としての生徒、ファンとしての保護者、監督としての校長、コーチとしての先生方をヘッドコーチとしての教頭がどのようにマネジメントしていくのかのよいヒントとすることができました。

「神ってる」や「カープ女子」の言葉が示すような、強く好感度の高い広島東洋カープのようなチームづくりを、今後の学校組織マネジメントに活かしていきたいと思います。

大会に参加して（シンポジウム）

小山市立乙女中学校　大　輪　　匡

佐賀県佐賀市に於いて、８月３日・４日の２日間に渡り、第63回全国公立学校教頭会研究大会佐賀大会が開催された。今年度はコロナ禍の中、初のオンライン開催の試みとなり、初日は県教育会館で、翌日は各個人での参加となった。

開会式では基調提案としてサブテーマの「志を高くもち 豊かな心と未来を切り拓く力を育む 学校づくりの推進」についての説明や、実行委員長からは、先人の「志」を今に生かし、自然や人々とのふれあいを通して豊かな感性や心情を育み、他者と協力しながら、変化の激しいこれからの未来を切り拓く力を子供たちに付けさせたいとの挨拶があった。

シンポジウムでは、コーディネーターの富吉賢太郎氏（学校法人佐賀清和学園理事長）より、幕末の佐賀藩の名君鍋島直正の教育改革における人づくりと、その志に思いを重ねながら、これからの教育は何を大切にするべきかについて提言が示された。

シンポジストの３名から、まず中島潔氏（日本画家・絵本作家）は、幼少期の決して恵まれない環境の中で、好きな絵をあきらめず、やがて機会を得、パリに渡り、そこで絵の師から褒められたことが画家への一歩となり今に至ったという経験談から、一言の声かけの大切さを示された。坪田信貴氏（坪田塾塾長「ビリギャルの著者」）も同じように小学生時、担任からのポジティブな声かけで自信を持ち可能性を広げることができ、現在の活動に繋がっていると発言された。さらに、子供の能力について、本来個々の能力は高く、その可能性を広げるのが教育であると示された。また、竹下真由氏（竹下製菓株式会社代表取締役社長「アイス：ブラックモンブラン」）は、幼少期の体験談から、多くのことに興味をもつことに周囲の理解があり、ロボットコンテストに関わることや将来家業を継ぐという志を果たすため、先を見通し計画的に努力した話の中で、志をもち続けることや積み重ねの大切さを示した。

全公教研究大会佐賀大会　特別Ⅱ分科会に参加して

さくら市立氏家中学校　君　島　玲　子

午前は「ＩＣＴを活用した業務改善に向けての副校長・教頭の役割と指導性」というテーマで、まず講師の武雄市教育委員会の徳永貞康先生の実践に基づいた講話をお聞きした。その後グループに分かれ、活用状況を確認したり、「成長していく職員組織にするために教頭はどのようにリーダーシップをとればいいか」について意見を交換したりした。

午後は「人を育て組織を活性化する人事評価」というテーマで、まず講師の佐賀市立本庄小学校の冨吉猛校長先生の講話をお聞きし、その後グループに分かれ、「学校教育方針を具現化するためにしていること」、「ミドルリーダーをどう育てていくか」について意見を交換した。

徳永先生も冨吉先生も実践されてきたことを具体的に紹介してくださり、とてもわかりやすく勉強になった。また、午前午後とも、それぞれ前半と後半に時間を分け、テーマをさらに絞って提示してくださったので、考えを焦点化することができた。

グループでの意見交換は、オンラインではあったが、不便さを感じることはなく、対面と同じ感覚で話すことができた。テーマに関する意見だけでなく、日頃教頭として悩んでいることや困っていることなども話題になり、かえって本音が出せる場となった。司会の唐津市立肥前中学校の宮田先生が上手に進めてくださって、有意義な話し合いの時間となった。

徳永先生の総評では「魅力的な職場であるか」という言葉が心に残った。教頭として組織作りや個々の職員への支援、コミュニケーションの重要性や目的意識といった、話し合いで出たことを実践していくことの重要性を感じた。冨吉先生の総評では「人を育てる」という言葉が印象的であった。ともすれば評価することばかりに目がいってしまいがちであるが、話し合いで聞いた諸先生方の取組を参考にしながら、「人を育てる」ことを念頭に、また日々の教頭としての職務に励もうという気持ちになった大会であった。

全公教研究大会佐賀大会　第４分科会に参加して

宇都宮市立清原中央小学校　福　田　　泰

令和３年８月３～４日に「全国公立学校教頭会佐賀大会」が開催されました。今年度は、コロナ禍の影響で８月３日の記念講演とシンポジウム、４日の分科会共にオンラインでの開催となりました。

大会１日目のシンポジウムと２日目の分科会に参加させていただきましたが、分科会では、「全国共通研究課題及び研究の視点」を基に、大きく10の分科会に分かれ、その中でもさらに細かいグループに分かれて、オンラインでの協議が行われました。

自身が参加させていただいた第４分科会では、「組織・運営に関する課題」について、３名の提言者の方から発表があり、それぞれの提言を話題にして、ＺＯＯＭのブレイクアウトルームで協議を行いました。北は北海道から南は鹿児島県までの先生方が、それぞれ地元の勤務先や自宅に居ながら、ＺＯＯＭを通してリアルタイムでの意見交換を行いました。主に人材育成や組織力向上に関すること、地域連携に関することなどを話題にして、各地域、各学校における取組の紹介や、それらについての質疑応答等、大変活発な意見交換が行われました。

慣れないことで初めはやや戸惑いを感じたものの、実際に協議が始まり、意見交換が活発になってくると、パソコンのディスプレイに映し出された先生方のリアルタイムでの表情や声に触れることで、現実の距離感とは関係なく、その場でテーブルを挟んで言葉を交わしているような印象を感じるようになってきました。

コロナ禍の中、ＺＯＯＭを活用したリモート会議は様々な機会に行われるようになってきて、決してハードルの高いものではなくなってきていますが、自身では正直、当初はオンラインでの協議に多少の不安を感じていました。しかしながら、今回、実際に参加させていただき、思った以上に有意義な研修の機会となり、改めて参加させていただく機会を与えていただいたことに感謝するばかりです。

役　員　紹　介

会長
鈴木　則利
（宇都宮市立陽東中）

結成59年目を迎える教頭会長として、521名の会員の皆様とともに、本会の充実発展と皆様の期待にこたえられるように尽力する所存です。関東や全国の役員とともに、教頭職の地位の向上や職場環境の改善等に向けて努めて参ります。１年間どうぞよろしくお願いいたします。

副会長
平本　宰己
（宇都宮市立姿川第二小）

今年度は副会長として鈴木会長を支えながら、教頭会の運営と発展のため、微力ではありますが力を尽くす所存です。コロナ禍の中、対策を講じながら教頭職の地位の向上に努めていきたいと思いますので、引き続き会員の皆様、役員と事務局の方々のご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

副会長
鷺嶋　優一
（上三川町立明治小）

この度、副会長を務めさせていただくことになりました。会長を補佐し、活動を推進していく所存です。コロナ禍が続く中、未来を生きる力を育む魅力ある学校づくりはいかにあるべきか、教頭職の立場を踏まえ会員の皆様との親睦を深めながら、共に研究を深めていければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

副会長
木所　一典
（宇都宮市立横川中）

今年度副会長を務めさせていただきます。まだまだコロナウイルス感染症収束が見通せない状況ではあります。児童生徒の健全育成のため、令和３年度活動方針のもと、事業計画がスムーズに行われますよう、鈴木会長と共に会員の皆様のお力をお借りしながら進められればと思います。１年間どうぞよろしくお願いいたします。

副会長
小出　幾子
（真岡市立長沼中）

今年度、副会長を務めさせていただくことになりました。

微力ながら会長を補佐し、教頭会の発展に寄与したいと思っております。教育活動にもまだまだ制約が多いコロナ禍の中ですが、精一杯取り組みますので、よろしくお願いいたします。

副会長
五月女康弘
（さくら市立氏家中）

副会長になりました五月女康弘と申します。コロナ禍の中での活動となりますが、他の役員の皆様と協力して、有意義な教頭会になるように努力していきたいと思います。１年間よろしくお願いいたします。

幹事長
中村　孝之
（宇都宮市立宮の原中）

幹事長として、今年度の事業や教育諸団体との連携、教育環境整備等の要請活動に全力を尽くして参ります。ワクチン接種が教職員、生徒にと徐々に進み、コロナ禍の出口が少し見え始めてきました。特に教職員の働き方改革推進の点では、このコロナ禍のピンチをチャンスと捉え、職責に見合う処遇への改善を要請する活動に努めたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

庶務
上岡　真澄
（宇都宮市立明保小）

今年度より、県公立小中学校の役員として、庶務を務めさせていただくことになりました。微力ではございますが、令和３年度の活動方針に基づき、県教頭会の運営が有意義なものになるよう、各種研修会や理事会等の進行を務めて参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

庶務
橋本　真己
（宇都宮市立雀宮中）

本年度、初めての役員として栃木県公立小中学校教頭会の庶務を担当させていただきます。県教頭会の運営が滞りなくいきますよう会議の進行を務めて参ります。鈴木会長ご指導の下、微力ながら精一杯取り組んで参りますのでよろしくお願いいたします。

会計
宇津木真理
（宇都宮市立中央小）

今年度より、県教頭会の会計を担当させていただくことになりました。コロナ禍で、何かと活動に制限のかかる日々ではありますが、対策を講じながら、工夫してできることを前向きに取り組んでいこう！と思っています。皆様方と協力し、充実した１年になりますことを願っています。どうぞよろしくお願いいたします。

会計
武藤　紀子
（宇都宮市立豊郷北小）

今年度会計を担当させていただくことになりました。県教頭会の運営の仕事に携わる機会をいただけたことに感謝しております。教頭会の運営がスムーズにいくよう、事務局や役員の皆様と連携を取りながら、微力ですが精一杯努めて参りたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

全国総務・調査部員
小栗　克樹
（宇都宮市立海道小）

今年度から、全国公立学校教頭会の専門部員を務めさせていただくことになりました。教頭1年目であり、たいへん未熟ではありますが、皆様のお力添えをいただきながら、少しでも学校のプラスになるように活動していきたいと思います。ご指導・ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

全国広報部員
村松　保子
（宇都宮市立御幸が原小）

今年度より、全国公立学校教頭会専門部員として、県教頭会の役員をお引き受けすることになりました。機関誌や教頭会通信等において、研究大会の取組を紹介したり、全国の副校長・教頭が抱えている課題などを取り上げて編集したりすることで、会員の皆様の専門性の向上に寄与して参りたいと思います。

研究部長
大木　和明
（宇都宮市立姿川第一小）

今年度、研究部長を務めさせていただきます。コロナ禍のため、昨年同様総会及び研究大会が書面開催となりました。鈴木会長を支え、会員の皆様方と相談しながら、これまでの研究の成果と課題を踏まえ深化・発展させていくとともに、研究部として今出来ることをしっかりと考えていきたいと思います。

調査部長
水口　武雄
（宇都宮市立雀宮南小）

調査部長を仰せつかり、役員会・理事会への参加や、総会・研究大会での担当業務、調査部員としての活動等をいたしております。特に、教育現場の現状や実態を的確に把握し、要請活動や研究発表への活用を図るための全国公立学校教頭会個人調査では、会員の皆様方に大変お世話になっているところであります。この調査結果を県内公立小中学校でさらに有効活用していただけるよう、一層の分析・考察に努めて参りたいと考えておりますので、今後ともご理解・ご協力をお願いいたします。

広報部長
吉田　　晋
（宇都宮市立岡本西小）

昨年度に引き続き、広報部長を務めさせていただくことになりました。今年度も様々な活動が制限されておりますが、教頭会報は年２回発行させていただくことになりました。教頭会事務局の皆様、役員の皆様と連携を取りながら進めていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

要請部長
田﨑　恭男
（宇都宮市立東小）

昨年度に引き続き、コロナウイルス感染症の影響で本来の活動が滞ることも多い中ですが、今年度、要請部長という大役を仰せつかり本県における義務教育の更なる充実、勤務諸条件の維持改善に向けて、皆様の現場の声をまとめ、発信して参りたいと存じます。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

ＩＴ部長
若林　直行
（宇都宮市立西が岡小）

今年度ＩＴ部を担当させていただくことになりました。会長を支え、会員の皆様方のご支援・ご協力をいただきながら、新型コロナウイルス感染症拡大防止に取り組み、子供たちにとっても、教員にとっても「魅力ある学校づくり」に取り組んで参りますので、ご支援・ご協力の程よろしくお願いいたします。

副幹事長
青柳　　正
（真岡市立亀山小）

県教頭会の幹事として今年で４年目となります。今年も、コロナ禍により活動が制限されることがあるかと思いますが、研修会や会議等への積極的な参加によって県教頭会で学んだことや得られた情報などを地区へ還元できたらと思います。教頭会の発展に少しでも寄与できるように頑張りたいです。

幹事
保田　方美
（宇都宮市立陽南小）

引き続き教頭会の幹事をさせていただき、今年度で３年目となります。まだまだ先が見えない状況が続いていますが、今年度も研修のオンラインでの開催や、講演会の配信など新たな対応を模索しながら、進んでいくことになるのだと思います。今やるべきこと、できることに精一杯取り組みたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

幹事
小塙　真穂
（上三川町立本郷小）

昨年度から引き続き、幹事を務めさせていただいております。コロナ禍でまだまだ厳しい状況が続きますが、安全・安心な教育環境を提供していけるよう努力して参りたいと思っております。教頭会においても、微力ではありますが課題の解決に取り組んでいきたいと思います。よろしくお願いいたします。

幹事
丸谷　晴英
（宇都宮市立田原中）

幹事になりました田原中の丸谷です。

教頭２年目ということで日々、学校経営や様々な対応等、教職員と連携を取りながら職務を遂行しています。先生方の明るく元気な笑顔が子供たちの明るく元気な笑顔に反映し生徒の健全育成につながれば最高です。１年間、よろしくお願いします。

幹事
関　　誠二
（鹿沼市立菊沢東小）

今年度、初めて教頭会幹事を務めさせていただくことになりました。まだまだ予断を許さないコロナ禍の中にあって、子供たちに有意義な学校生活を提供するためには、私たちの創意工夫が重要であると痛感しているところです。本会においても、少しでも会員の皆様の力になれるよう微力ながら尽力したいと思います。

幹事
大出　孝一
（野木町立野木中）

今年度、監査と幹事の仕事をさせていただくことになりました。

栃木県公立小中学校教頭会という大きな組織の責任ある役職であり、私には荷が重いと感じておりますが、できる限り精一杯務めさせていただきますので、ご了承いただければ幸いです。１年間、よろしくお願いいたします。

幹事
宇梶　誠司
（大田原市立金丸小
北金丸分校）

今年度、幹事になりました宇梶誠司です。結成59年目を迎える栃木県公立小中学校教頭会をこれまで支えてこられた先輩方の努力と功績に敬意を表します。そして、微力ですが、役員の皆様に教えていただきながら、会のさらなる発展のために尽力していきたいと思います。会の皆様、よろしくお願いいたします。

幹事
岡安　明子
（那須烏山市立江川小）

昨年度に引き続き、教頭会幹事を務めさせていただきます。今年度も、感染症流行を考慮しながらの活動になるかと思いますが、会議に積極的に参加して会員皆様と情報交換を行い、課題解決に尽力していきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

幹事
周東　良美
（足利市立大月小）

この度、「幹事」を仰せつかりました足利市立大月小学校の周東と申します。異動したばかりでもあり、誠に微力ではございますが皆様のご助言・ご協力をいただきながら、本会の更なる充実・発展のため、全力で努めて参りたいと思います。何卒よろしくお願いいたします。

研究副部長
北條　　諭
（宇都宮市立国本中央小）

昨年度から引き続き、研究部の副部長を務めさせていただくことになりました。勤務校のテーマは「**花**（はな）と**緑**（みどり）と**小鳥**（ことり）の学校」。教頭会における私のテーマは、教頭会の皆様とたくさん**はな**しをし、選り取り**みどり**のアイディアをもらい研修する**こと**を、**り**きまずやっていくことです。

研究副部長
加藤　雅継
（宇都宮市立豊郷南小）

着任以来、たくさんの先輩方から、たくさんのアドバイスをいただきました。本当にありがたく、感謝しながら日々を過ごしております。本年度、研究副部長を務めさせていただくことになりました。鈴木会長の下、会員の皆様と連携しながら研究を深めていければと思っております。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

調査副部長
半田　祥正
（宇都宮市立雀宮中央小）

本年度も引き続き調査部副部長を務めることとなりました。コロナ禍で皆さんと直接顔を合わせる機会がめっきり減って寂しい限りですが、少しでも皆さんのお役に立てるよう、尽力いたしますので、よろしくお願いいたします。

調査副部長
津久井　文
（宇都宮市立平石中央小）

今年度より、調査部副部長として県教頭会専門部役員をお引き受けすることになりました。未熟ではありますが、調査部の仕事を通して、教育現場の現状や実態を的確に把握するとともに、県と市とのパイプ役として情報発信することができるよう、精一杯努めて参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

広報副部長
山口　和彦
（宇都宮市立田原小）

昨年度に引き続き、広報部の副部長を務めさせていただくことになりました。広報部長や部員の皆様のお力添えをいただきながら、教頭会報の作成を進めて参ります。コロナ禍による大変心配な状況下でありますが、できることを精一杯行っていこうと考えています。本年度もどうぞよろしくお願いいたします。

広報副部長
庄司　和弘
（宇都宮市立宝木中）

今年度、広報副部長を務めさせていただくことになりました。広報部長や広報部の皆様と協力しながら教頭会報を作成していきたいと思います。感染症対策等、忙しい毎日が続きますが、原稿の依頼等でお世話になることもあるかと思います。１年間どうぞよろしくお願いいたします。

要請副部長
栗原　隆史
（宇都宮市立御幸小）

本年度、要請副部長を務めさせていただきます。学校現場では教職員の傷休者が増加しており、日々補教の対応に明け暮れる状況が多くの学校で頻発しています。必要な人材の確保に十分な予算を確保されるよう、教頭会の立場から声を上げて参ります。皆様のご支援ご協力を何卒よろしくお願いいたします。

ＩＴ副部長
金橋由美子
（宇都宮市立清原中）

ＧＩＧＡスクール構想による個人用パソコンを活用した授業では、教師や生徒の対応力の早さに感心するとともに、活き活きと学ぶ姿に、嬉しく思います。やってみて、使ってみて学ぶことが多いようで、私自身も情報活用能力の向上に必死です。今年度、よろしくお願いします。

ＩＴ副部長
吉住　康平
（宇都宮市立豊郷中）

学校のスローガン「笑顔と感動のあふれる豊郷中」に向けて、多種多様な情報を収集しながら、コロナ禍での新しい学校生活の中でもできることを、学校全体で工夫して取り組んでいます。こういう状況だからこそ、ＩＴ部役員として少しでも情報共有に貢献できるように、前向きに取り組みます。

地域と共にある学校づくり

那須烏山市立烏山中学校　生　井　正　子

本校は、那須烏山市の東部に位置する生徒数349名の中規模校です。那須烏山市は、教育に生かせる文化財がたくさんあり、それらに携わる地域の方々の温かさを感じることができます。本校の活動の中にも地域との交流活動がいくつかあるのでご紹介します。

まず、本校には、「郷土芸能部」があります。那須烏山市には、国の重要無形民俗文化財であり、平成28年にユネスコ無形文化遺産に登録された有名な「山あげ祭」があります。郷土芸能部は、地域の方の指導のもと、山あげ祭のお囃子の練習に取り組み、例年行われている県総合文化祭に出場しています。初心者で入部する１年生も３年生になる頃には、一通りの演奏ができるようになり、毎年夏になると太鼓の音で心が躍動します。

続いて平成28年から市の「ジオパーク構想」が動き出し、地域の遺産の保護と活用を図りながら地域の活性化をめざす活動が始まりました。昨年度は本校１年生が「地域を知る」活動として、ジオガイドさんの指導で地層や化石の観察を行いました。生徒たちは、葉や貝の化石を採取し、大地の変遷の歴史に触れることができました。

今年度は、地域コーディネーターとの連携をより深め、地域とつながりながら、生徒の成長を育んでいきたいと考えています。

グローカルリーダーの育成をめざして

栃木県立佐野高等学校附属中学校　木　村　佳　弘

本校は、平成20年４月に県立佐野高等学校に併設する附属中学校として設立された中高一貫教育校です。教育目標は、「国際人として活躍できる真のリーダー」の育成です。この目標を実現するために今年度から“Sanoグローカル構想”を立ち上げました。“Sanoグローカル構想”は、郷土の偉人「田中正造翁」から学び、ローカルな課題からリージョナルな課題に視野を広げることにより、グローバルな視点で課題を発見し、解決策を提言・行動できるグローカルリーダーの育成を目指しています。その実現のため、本校では、「文化・芸術活動を柱とした教養教育」、「プレゼンテーション能力の育成」、「読書活動を中心に捉えた表現力・思考力の育成」、「自己実現を目指したキャリア教育」、「自然科学の本質に触れる理数教育」、「リーダーシップ・フォロアーシップの育成」の６つの特色ある教育活動に取り組んでいます。その中の２つを紹介します。

一つ目は、「文化・芸術活動を柱とした教養教育」です。日本の伝統文化の学習（茶道や華道の体験、能楽や歌舞伎の鑑賞、箏や三味線の演奏など）や様々な国の文化・芸術に触れる学習を総合的な学習の時間や文化的な行事に位置付け、日本の伝統文化や外国の文化を理解し、尊重する態度の育成に取り組んでいます。二つ目は、「プレゼンテーション能力育成」のための英語教育です。学校設定科目「ＣＴＰ（Critical Thinking Program）」という授業の中で、英語の授業で培った４技能や情報活用能力をもとに、プレゼンテーション・討論・コンピュータを活用した学習を行いながら物事を論理的に考え分析し、英語で相手にわかりやすく伝える力を育成しています。そして、その成果の発表の場として、年度末に行われる校内発表会を位置付けています。高校生の前で発表するという機会は、中学生にとっては大変有意義な時間となっています。

これからも佐野高等学校附属中学校は、多様化する社会の中で、自ら課題を見出し、解決策を提言し、行動に移すことができるグローカルリーダーの育成を目指していきます。

一体感のある会を目指して

宇河地区中学校副校長・教頭会長　木　所　一　典

本会は、会員である副校長・教頭の資質を高めるための研修と親睦を図ることを目的とし、宇都宮市立中学校25校の副校長26名（１校が複数配置校）と宇都宮大学共同教育学部附属中学校、県立宇都宮東高等学校附属中学校の教頭２名、上三川町立中学校３校の教頭３名の31名で組織され、目的達成のため、会員は研究部・広報部・調査部・ＩＴ部の４つの専門部と事務局に分かれ活動しています。

本会の研究課題は組織・運営に関する課題で、「家庭や地域社会との連携を生かした学校危機管理体制の在り方」をメインテーマとし、昨年度から３年計画で取り組んでいます。

昨年度は、各中学校の実態を調査し、危機管理体制における課題を明らかにしました。今年度は、課題解決に向けての方策を様々な事象に広げて実践していきます。これらの活動を共有するために、年６回の研修会（内１回は総会）を開催します。

管理職として日々職務に追われて悩みを共有する人は学校内にはいない状況です。本会研修会は、学校での課題や悩みを持ち寄り、課題解決に向けての話し合いを行いながら、研究に取り組んでいます。学びあい、励ましあう時間となっています。また、研修会以外では、宇都宮市の学校用グループウェア「ミライム」のメール機能や通常のＥメールを活用して、学校間の情報交換や情報共有をしています。

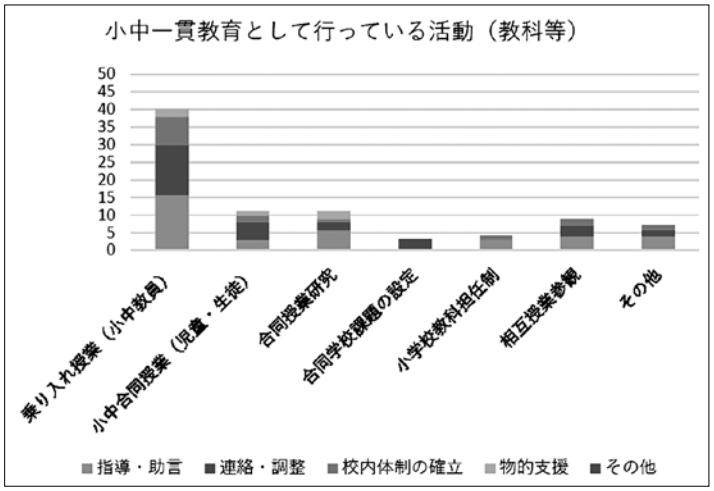
副校長・教頭として、地域とともに生徒のために、学校のために私たちがやるべきことを再確認し、一体感のある会を目指して、努力を重ねていきたいと思っています。

「未来を生きる力を育む　魅力ある学校づくり」のために

那須地区小中学校教頭会長　渡　邉　　智

昨年度、本地区では、地区を５つのブロックに分け、目の前の子供たちの10年後、20年後の未来のために今やるべきことは何か、を研究してきました。各ブロックのテーマは「①組織・運営に関する課題」、「②教職員の専門性に関する課題」、「③子供の発達に関する課題」、「④ＰＴＡ及び地域社会に関する課題」、「⑤教育課程に関する課題」です。

その内、第５ブロックでは、主題を「学校や地域の特色を生かした小中連携について」、副主題を「小中連携を深めるための教育課程と教頭の役割について」とし、校長の方針のもとで、具体的に提案し、執行し、管理していく教頭の役割とはどのようなものか、について県で（紙面にて）発表しました。本地区においては、中学校区ごとに「地域学校協働本部事業」が整備されつつあり、一貫教育を見据えた教育課程の充実が求められています。小中連携の深まりを加味した教育課程を編成していくためには、小中の全教職員が分担・協力して統一性のある組織を築いていくことが不可欠です。



今年度も、各ブロックが①～⑤の課題研究を継続します。今後、どのように予測困難な社会になろうとも、子供たちが自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現していくことが大切です。そのために学校はどうあるべきか、教頭はどのような視点をもち取り組んでいくべきかをさらに研究していきたいと思います。

ひ　ろ　ば

空への憧れ

宇都宮市立白沢小学校　福　田　隆　行

最近本校の児童から、「先生が小学生の時になりたかった職業は何ですか？」と聞かれることがあった。思い返してみるといろいろな職業に憧れたが、一番古い記憶では「パイロット」と言っていたと思う。

そのころの夢は夢で終わってしまったが、空を飛ぶこと（もの）への憧れは今でも抱いており、ふとした瞬間に火が付くことがある。

昨年のコロナ禍の中、ネット記事の中から、最近はドローンが進化して手軽に飛ばせるという情報を得て、入門用の機体を購入するに至った。（今回は室内用に７千円程度、屋外用に３万円弱の機体を大人買い！）

さてさて結末は……私が購入したのは重量200グラム未満で航空法に抵触しないトイドローンと呼ばれるものであるが、オプティカルフローセンサーやジャイロセンサーが搭載され、安定したホバリング（空中で一時停止すること）や飛行ができる（私の機体は垂直距離で100メートル、水平距離で半径300メートルは操作可能）のはもちろんのこと、ＧＰＳが搭載されていてリターンボタンで離陸地点に戻ってきたり、写真や動画の撮影が出来たりと大人の好奇心を十分に満たす代物であった。

最近は、週末の自分時間を使い、密を避け、河川敷等でドローンを飛ばしたり、空からの景色を堪能したりしている。興味のある方はぜひ手にして、鳥の目で空中からの景色を楽しんでみてはいかがでしょうか。

私の読書

益子町立益子西小学校　佐　藤　一　郎

趣味と言えるほどのものではないが、自分にとっての「読書」について、少しお話をさせていただく。

そもそも自分が多少本を読むようになったのは、高校時代の図書委員（１年生の時の担任に、原因不明の推薦をされたことによる）として参加した読書会からである。それ以前の子供時代を思い返しても、あまり読書の記憶は無い。

先に記した読書会で井上　靖 氏の「敦煌」に出会い、何が自分の琴線に触れたのかは分からないが、井上氏の作品を次々に読み進むことになった。

さらに読書にのめり込むきっかけは、学生時代の貧乏生活である。文庫本なら、500円を払えばほとんどのものが買えた時代である。500円で手に入る娯楽は大変貴重であった。

ただ、それで三島由紀夫 氏に憧れるとか、宮沢賢治 氏を研究するとか、ましてや教職に就く者として教育書を読みあさるとかといったことは全く無く、ひたすら自分の心を満たしてくれそうな作品（小説）のみを楽しんできた。

読み始めると、時間が経つのも忘れて朝を迎えてしまうこともあったが、老眼による活字離れは深刻で、いよいよ土方歳三ともお別れかなと、還暦に憂いを覚える今日この頃である。

歌と共に

足利市立山辺小学校　保　々　悦　子

縁あって足利に暮らし始めて28年。私にはその間ずっとお世話になっているコーラスグループがあります。しっかりと計算したことはありませんが、おそらく平均年齢は、75才ほどになるでしょう。私は、そのグループで歌うことの楽しさと大先輩方から生きる楽しさを教えてもらっています。私は小さいころから運動が大好きで、やりたいスポーツや部活動がたくさんあったにもかかわらず、なぜか小中高と合唱部に所属していました。縁とはこういうものなのでしょう。そのせいか、おかげか、今、振り返ると私の人生は「歌と共に」過ぎてきたように思います。これまでに歌った曲の数は、1000曲にあと少しというところでしょうか。歌を通して知り合った方の数も数え切れないほどになっています。すべてが私の宝物です。歌のない人生は考えられなくなった今、大先輩方のように80才を過ぎても元気ににこやかに歌っていくことが私の夢・希望です。マスクの外せない日々ですが、「やれることを楽しくやる」の精神で、歌に元気をもらいながらワーク・ライフ・バランスの毎日を送っていきたいと思います。ちなみに今、私に元気をくれている歌は「麦の唄」です。合唱にするとひと味違って、またいいものです。これからも、歌と共に一歩一歩！それが、私です。

編集後記

昨年の６月に学校が再開し１年が過ぎました。通常の生活を取り戻すことができましたが、様々な制限があります。新型コロナウイルス感染症については、長期的な対応が求められることが見込まれますが、こうした中でも持続的に児童生徒の教育を受ける権利を保障できればと思います。すべての人がワクチン接種を終え、新型コロナウイルスの感染がおさまることを祈ります。

さて、第53号も、昨年度に引き続き、県教頭会令和３年度の役員の皆様の自己紹介を取り入れ編集いたしました。

末筆ながら、お忙しい中原稿をお寄せいただいた皆様に感謝申し上げます。　（吉田）